

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣

医

の

カ

ル

テ



45



高島獣医科魚津病院
(魚津市本江)

長田 雅美

今回はヒト、ペットの両方に感染するウイルスについて説明します。

草むらでマダニにかまれて感染するウイルスをご存じでしょうか。重症熱性血小板減少症候群(SFTS)を引き起こすウイルスです。SFTSはしばらく原因不明だったものの、2011年にウイルスが見つかり感染症と判明しました。

昨年12月までの報告では全国で500人近くの人が発症し、うち70人の方が亡くなっています。ことし1月現在、SFTSの発症者

SFTSウイルス



犬の目の上に付いたマダニ

発症後数日で重症化

は北陸、関西、中国、四国、九州地方で報告されていますが、このウイルスの遺伝子を持つマダニは北海道、東北地方でも確認されています。

ヒトが感染した場合の潜伏期間は6日〜2週間程度。初期症状は発熱、頭痛、筋肉痛、消化器の異常などです。血液検査では血小板減少、白血球減少が特徴的にみら

れ、肝酵素の上昇を伴うことが多いです。

犬猫では進行が早く、発症から数日で重症化し、死に至ることもあります。

主な初期症状として、発熱、食欲の低下が挙げられます。血液検査で血小板減少やCPK(クレアチンホスホキナーゼ)値の上昇がほぼ全頭にみられるほか、猫で

犬では症状が現れないまま、死に至る個体も多いと考えられます。

感染経路はマダニの吸血が主ですが、近年はSFTSに感染したペットから飼い主にうつったという報告もあります。発症した動物の体液や血液に触れたり、発症動物にかまれたりしたことが原因と考えられます。

ペットの発症は4月がピークですが、真冬でも発症したという報告があります。人もペットも、マダニにかまれないよう予防する必要があります。人の場合は予防薬がないので、草むらに入るときは肌を露出しないようにしてください。

予防薬として、猫には背中に滴下タイプ、犬には内服タイプと滴下タイプがあります。どちらも通年で使用するといわれています。詳しくは、かかりつけの動物病院の先生に相談してください。

黄痘、犬でC反応性たんぱくの上昇がみられるなど、人とは違った反応もみられます。

確定診断は専門の研究所に血液や唾液などの検体を送り、ウイルスの遺伝子検査をするしかありません。

SFTSの致死率は人で約20%、犬で約30%、猫で約60%です。